



梅雨も明け、いよいよ夏本番！照りつけるような陽射しに、立っただけでも汗がでてるほどの暑さですね。それと同時に水遊びやかき氷など、暑い時だからこそ楽しめることもたくさんです。熱中症には十分に気をつけながら、この季節ならではの楽しみをたくさん見つけていきたいですね。

幼児期から学童期へ

『変わりゆく自分を感じる』

「すじ道だてて考え表現するちから」によって、子どもは自分と向きあい、時の流れのなかでの自分を理解するようになります。「去年はいつも泣いていたのに、わたし、泣かなくなりました」「年長さんになってから、ぼくオネショしないよね」などと成長した自分に気づき、おとなに同意を求めてくることがあります。自分の心のなかでその事実を繰り返し思い返して、幸せな気分になります。

変わってきた自分をわかることは、これからの時間で自分の可能性を感じることもあります。そんなときなので「勝ち負け」や「順位」が子どものなかで重大事になります。どんなことでも一番になりたくなり、早いことはいいことだとばかりに、給食の早食い競争に興じることになるのです。ときに、「オレの家は、5だぞ」などと、自分の家の部屋の数や家族の人数を自慢しあったりするでしょう。

だから、なかまに遅れを取るようなことがあると悔しいのです。保育所から帰ってきて、おとなが夕食の準備に忙しい時間に、一人で黙々と走り縄跳びの練習をしているようなことがあります。「一番になるばかりが大切じゃない」「早いばかりがえらいのではない」とおとなが格言めたいことを言っても、この時期の子ども心にはうつろに響きます。「一番」や「早い」よりもすてきなことがあることは、子ども自身が時間をかけて、なかまのなかで学びとっていくものですし、またそうであってほしいと思います。

「学びとっていく」ために、子どもの願いのために、いっしょにがんばってみたいと思います。そうしてがんばっても、一番にはなれない現実がたくさんあります。けれど、がんばったから「だんだん大きくなった」のです。そして、なかまもみんな「だんだん大きくなった」のです。自分ばかりではなく、なかまの一人ひとりが、その子らしくがんばっ

たことに、感動と愛情をもって向きあえる人格へと、育ててほしいと願います。

それは子どもに望むことではなく、おとなが感動と愛情をもち、分け隔てなく子どもたちと向きあっているかということでしょう。子どもは、他でもない身近なおとなの心のありようを手がかりとして、人間を大切にすることとはどういうことか、ほんとうの愛情とは何かを、知っていくのです。

参考文献：『発達を学ぶちいさな本』 著：白石正久



【9・10月のさくらんぼ教室】

さくらんぼ①：9月はありません

10月10日（木）しゃぼん玉

〈持って来るもの〉

洗面器（約30cm×30cmのものを用意してください）

さくらんぼ②：9月26日（木）つくってあそぼう！

〈持って来るもの〉はさみ・のり・マーカー

10月24日（木）しゃぼん玉（つくってあそぼう）

〈持って来るもの〉

洗面器（約30cm×30cmのものを用意してください）

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- お休みされる場合は、学園までご連絡下さい
- 参加費はおやつ代の100円です。製作やクッキングの活動の時には材料費として追加で100円いただきます。その都度連絡いたします
- 活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- 水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えて下さい）
- きょうだい児の参加はご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきて下さい